
■■■■ ■ ■■■■ 利用教育委員会通信
■ ■ ■■■ 日本図書館協会図書館利用教育委員会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・「〈CUE〉利用教育委員会通信」は日本図書館協会図書館利用教育委員会
がニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・〈CUE〉は **Committee of User Education** の頭文字です。英語の「cue」
はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・本誌は等幅フォントでご覧ください。
- ・利用教育関連の情報をお寄せください。本誌へのご意見やご要望もお待ち
しています。 cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1) 第22回図書館利用教育実践セミナー (in 東京) の開催予告
- (2) 第102回全国図書館大会 東京大会 (第13分科会 利用教育) の開催報告
- (3) 第21回図書館利用教育実践セミナー (in 名古屋) の開催報告
- (4) 編集後記
- (5) 図書館利用教育委員会委員

-
- (1) 第22回図書館利用教育実践セミナー (in 東京) の開催予告

- ・テーマ：館種を越えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて
一多様な対象者に対する多様なアプローチ (仮)

- ・日時：2018年3月11日(日)13:30～16:30 (予定)
- ・場所：跡見学園女子大学 文京キャンパス (東京都文京区大塚 1-5-2)
<http://www.atomi.ac.jp/univ/about/campus/access.html>

- ・主催：日本図書館協会
- ・企画・運営：図書館利用教育委員会

・参加費（資料費）：500 円（予定）

・申込み：氏名（よみ）・所属・連絡先を記載のうえ，当委員会まで
(cue@jla.or.jp)

・詳細：<http://www.jla.or.jp/cue/>

(2) 第 102 回全国図書館大会 東京大会（第 13 分科会 利用教育）の開催報告

館種をこえた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて
—先駆的事例から考える図書館の新しい役割—

春田和男（東京家政大学）

第 13 分科会（利用教育）では，2016 年 10 月 16 日，青山学院大学 青山キャンパスにおいて，標記のテーマで，趣旨説明，講演，報告，事例紹介を行ったのち，グループワークを行った。当分科会には，40 名以上が参加した。以下，本記事では敬称を省略する。

○趣旨説明：野末俊比古（青山学院大学教育人間科学部）「館種をこえた情報リテラシー教育の枠組み―試（私）論を含めて―」

図書館における情報リテラシー教育に関する取り組みには、1)各館の「基準」、2)館種・地域などの「指針」、3)図書館界としての「枠組み」がある。これまで日本では、1)と2)の取り組みは行われているが、3)の取り組みはあまり行われていない。3)の取り組みを行うにあたって、生涯学習（発達・活躍）の視点から、各館種間の関係と、図書館以外の情報環境を図で示して、解説を行った。

○講演：天野由貴（椙山女学園大学図書館）「高大接続する学力―情報リテラシーのカギは問う力とレポートにあり!!」

大学生のレポートの作成事情、学校図書館における調べ学習、読む技術と書く技術、批判的思考力と問う力等について説明した。情報リテラシー教育を行うにあたり、1)問いをつくるプロセスに時間をかけること、2)アウトラインで組み立てること、3)結論から文章を構成することを指摘した。

○報告1：中山美由紀（東京学芸大学附属小金井小学校）「小大連携の試みと『先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース』」

東京学芸大学 学校図書館運営専門委員会では、幼、小、中、高、特別支援の各学校の多様な教科で図書館を活用した授業実践を見ることが出来るサイトとして、「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」を2009年から開設している。小学校での様々な授業実践のほか、小学生が大学の附属図書館に行くという事例も紹介した。

○報告 2：石川敬史（十文字学園女子大学）「日本図書館協会中堅職員
ステップアップ研修(2)『情報リテラシー支援』を通して公立図書館
における情報リテラシー支援を考える」

標記の研修の概要を紹介したのち、公立図書館における情報リテラシー支援がめざすものとして2つのキーワードを挙げた。1つは、地域資源を活かす仕組みづくりである。市民に情報リテラシー支援が届いているか等の問いを提示した。もう1つは、リテラシーの捉え方である。機能的リテラシーと批判的リテラシーの違い等に言及した。

○事例紹介：春田和男（東京家政大学人文学部）「公立図書館の実践事例集に見る情報リテラシー教育（支援）の取り組み」

『図書館実践事例集～人・まち・社会を育む情報拠点をめざして』は、都道府県から推薦があった公立図書館での様々な取り組みを文部科学省が取りまとめたものである。全112の事例の中から、情報リテラシー教育（支援）に取り組んでいる愛媛県立、京都府立、鳥取県立の図書館を紹介した。

(3) 第21回図書館利用教育実践セミナー（in 名古屋）の開催報告

情報リテラシー教育の理論に関する講演と各館種の事例報告からなる
プログラム

—東京、京都に続き、名古屋で初開催—

春田和男（東京家政大学）

日本図書館協会（企画運営：図書館利用教育委員会）では、2017年3月12日、相山女学園大学 中央図書館で標記のセミナーを開催した。名古屋での開催は初めてである。

今回のテーマは「館種を越えた情報リテラシー教育の枠組みづくりに向けて 生涯にわたって学びを支える図書館―実践と理論の融合をめざして―」である。委員長による開催の趣旨説明ののち、基調講演と事例報告が行われた。

基調講演では、瀬戸口誠氏（梅花女子大学文化表現学部）が「『高等教育のための情報リテラシーの枠組み』にみる情報リテラシーの位置づけ」と題し、情報リテラシー教育に関する理論的な説明を行っている。事例報告では、鈴木崇文氏（名古屋市鶴舞中央図書館）による「名古屋市図書館の児童サービスと利用者教育の試み」の報告や、家城清美氏（同志社大学社会学部嘱託講師）による「学校図書館の情報リテラシー教育と大学での情報リテラシー教育：二つの情報リテラシー教育を実践して」と題する報告が行われている。

その後、質疑応答と意見交換が行われた。最後に、希望者のみ、会場校の大学図書館の見学ツアーを実施した。セミナーの参加者は、各館種の図書館職員など36名である。参加者のアンケートでは「大変勉強になった」などの意見が寄せられた。

(4) 編集後記

第 92 号をお届けします。今号では、3 月に開催する第 22 回図書館利用教育実践セミナーの開催予告を掲載しました。今後とも『利用教育委員会通信』をどうぞよろしくお願いいたします。(春田)

(5) 図書館利用教育委員会委員

(委員長)

野末俊比古：青山学院大学教育人間科学部

(委員)

天野 由貴：椋山女学園大学

石川 敬史：十文字学園女子大学

春田 和男：東京家政大学人文学部

福田 博同：跡見学園女子大学文学部

(事務局)

久保木いづみ：日本図書館協会事務局

〈CUE〉利用教育委員会通信 第 92 号 (27 巻 3 号) 2018.1.10 発行

・バックナンバー：<http://www.jla.or.jp/cue/>

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ：cue@jla.or.jp

※本誌は Gmail を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本誌の内容と Google とは関係がありません。
